

研究課題名	持続性心房細動における再発因子の検討（後ろ向き 観察研究）
研究機関名	武蔵野赤十字病院 循環器科
研究責任者	所属 循環器科 氏名 永田恭敏
研究期間	（西暦） 倫理委員会承認後 ～ 2020 年 6 月
研究の意義・目的	発作性心房細動に対するカテーテルアブレーション（肺静脈隔離術）は確率した治療法である。持続性心房細動に対する肺静脈隔離術も有効な治療方法の1つであるが、発作性に比べ、再発率が高い。それは、持続性心房細動は発作性心房細動と比べ異なった原因があるためと考察されているが、その原因は多数の指摘がされている。 今回は、持続性心房細動に対してカテーテルアブレーションをうけた患者の再発因子を検討することで、持続性心房細動自体を層別化し、各々により適した治療方法を検討する事が今回の目的である。
研究の方法 （対象期間含む）	対象 2015年から2018年まで間に、持続性心房細動、長期持続性心房細動に対して当院にてカテーテルアブレーションをうけた患者様。  方法 特別な介入は行わない。治療は基本的に“循環器学会 不整脈非薬物治療ガイドライン”に沿った通常診療を行っており、その記録を診療録から採集する。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 （匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む）  ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目  ③利用する者の範囲  ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①収集された診療情報は、匿名化（名前・IDなどを削除）した上で、武蔵野赤十字病院内から持ち出し禁止のパソコンに保存される。匿名化番号を使用し、研究対象者の個人情報が入らないように配慮する。  ②調査項目 （ア）患者背景：性別、年齢、身長、体重、内服薬、合併症、既往症、薬物治療など （イ）心電図、ホルター心電図：心房細動発生の有無など （ウ）心臓超音波検査：左房径、左室駆出率、拡張能など （エ）血液検査データ：BNPなど （オ）カテーテルアブレーション記録：肺静脈隔離術、その他の心房細動治療、心房細動停止時の特徴、Sinus Node Recovery timeなど （カ）心臓CT画像：左房の形態学的評価  ③利用する者の範囲 武蔵野赤十字病院 循環器科 医師  ④責任者 永田 恭敏
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ  〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 循環器科 氏名 永田恭敏  TEL：0422-32-3111（代表）6812（事務局内線） FAX：0422-32-3525